



# 国土交通大臣賞 (5件)

<b>国土交通大臣賞</b> <small>「事業所・地方公共団体等」分野</small>	受賞者名
	<b>大野産業株式会社</b>
	所在地
	<b>沖縄県島尻郡南風原町</b>
受賞テーマ	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 残余生コン及びコンクリート廃材の産学官研究・実証</li> <li>・ 電気炉スラグ（再生資源）の利用推進</li> </ul>	

同社は、昭和 48 年から生コンクリート製造業を営み、沖縄県内の道路・港湾など社会資本の整備について、行政機関や地域と協調し微力を尽くしてきた。

当時の業界ではリサイクルへの取り組みが弱い中、残余生コン及びコンクリート廃材の適正な処理が課題となったことから、他社に先駆けて、昭和 56 年からリサイクルに取り組み、昭和 59 年には社内に研究室を設置し調査研究を実施してきた。

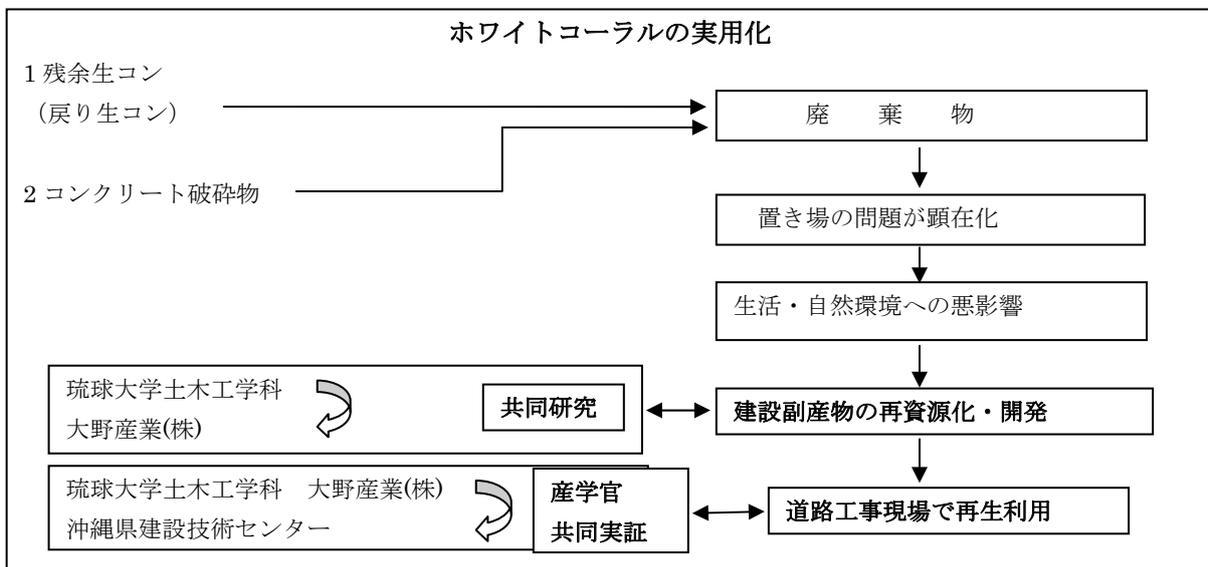
昭和 60 年から平成元年にかけては、琉球大学工学部と共同研究を行い、残余生コン、コンクリート破砕片及びコーラルを混合した「新路盤材の開発利用」に向けた基礎的・実験的研究を実施してきた。

平成 2 年には、この研究実績を踏まえ、同社、琉球大学工学部、沖縄県建設技術センターの「産学官」により、沖縄本島南部の県道において、開発中の路盤材を使用し、実証試験を実施してきた。

この成果をもとに、平成 5 年～7 年の間に、残余生コン及びコンクリート廃材を再資源化した「粒調再生路盤材ホワイトコーラル」を開発、特許申請し普及を図ってきた。

その用途については、内閣府沖縄総合事務局（当時は沖縄開発庁）をはじめ、沖縄県、市町村の公共工事等において、上層路盤材及び下層路盤材として設計仕様に採用され使用されてきた。

また、戻りコンを製品化し擁壁等への利用によって、産業廃棄物の発生抑制に努めてきた。



他方では、県内唯一の製鉄会社と事業連携し、再生骨材と電気炉酸化スラグを混合した「再生砕石（スラグ混）RC-40」を開発し、公共工事等へ建設基礎資材として使用することによって、最終処分場の延命化に寄与しスラグの排出抑制に尽くしてきた。

現在では、他の民間事業所において、同社のノウハウが広く利用されており、業界全体としての循環型社会の構築に寄与している。